



自立活動だより

NO. 11

文責

自立活動支援センター

令和3年12月3日発行

雪の便りが聞かれるようになり、遂に冬将軍が到来する季節となりました。

冬の季節は、室内と屋外の寒暖差が大きく、乾燥した日が続きます。この寒暖差と乾燥が補聴器や人工内耳に様々な悪影響を与えます。

その影響の一つが電池の寿命です。乾燥の影響で、普段は10日間ぐらい使用可能であった電池が7日間程度に寿命が縮まってしまうことがあります。また、電池は気温が低いと電池の出力が正常になるまでに時間がかかってしまいます。新しい電池に入れ替えるときなどには、電池を手で温めてから入れると正常な出力になる時間が早まります。

影響の2つ目が、結露です。寒い屋外から温かい室内に入ると眼鏡が真っ白に曇ることがよくあります。これが結露です。この現象が補聴器のイヤモールドと本体をつなぐチューブで起こります。写真のようにチューブに水滴が溜まり、こもったような音になってしまいます。このようなときは、ティッシュペーパーでこよりを作って水滴を取り除いてください。

これから本格的な冬となります。冬も快適に補聴器や人工内耳を装用できるようにしましょう。



こより



結露

ていねいに、ていねいにとは

～口声模倣・拡充模倣～

昔から、聴覚障がい児に言葉を教えるということは、「口移しするように教える」と言われています。この意味は、私たち聴覚障がい児とかかわる大人が使っている言葉を聴覚障がい児に口移しするように教えるということです。その方法の一つが、口声模倣、拡充模倣です。この方法は、大人の話した話を、復唱させることです。また、拡充模倣とは、子どもが話した話を更に分かりやすく言葉を足したり、訂正したりして復唱させることです。学校生活の中でも、この方法を頻繁に使って子どもたちに言葉を教えています。

子どもたちは、様々な場面で、自分の思いを伝えてきます。その時、助詞の誤りや言葉の使い方の誤りなどに気付きます。そのようなときは、この口声模倣・拡充模倣を使います。この時大切なことは、子どもの伝えたい気持ちを一度しっかり受け止めてから、正しい日本語に直して言い直させることです。その際には、しっかり話し手の口元に注目させて、話を聞くように促します。また、正しく言えるまで、何度か口声模倣を促します。正しい日本語を一度しっかり記憶させることが言葉を定着させるために大切なことです。

この口声模倣と拡充模倣は、子どもたちの言葉を育てる方法としては、非常に有効な方法です。様々な場面でこの方法を使って、子どもたちの言葉を育てていきましょう。言葉を「口移し」するように。



人工内耳について

～補聴器と人工内耳の違い～

本校の人工内耳を装用している幼児児童生徒の割合は、4割です。年々人工内耳を装用する幼児児童生徒が増えてきています。これは、補聴器では充分聴覚を活用することができない子どもが人工内耳にすると補聴器に勝るとも劣らないくらいの聞こえを獲得できるということもあります。

補聴器と人工内耳の違いは、補聴器は耳に入ってくる音を増幅して脳に伝える機械です。一方、人工内耳は、耳の奥の内耳の蝸牛と言われるカタツムリの形の器官に電極を挿入して聴神経に電気刺激を直接与えて音を脳に伝える機械です。補聴器と人工内耳は、仕組みが全く違う機械です。これから、何回かに分けて人工内耳についての情報を提供させていただきます。



